

# 無関心・落ち着きなく

近年増え続ける児童虐待ですが、痛ましい事件は後を絶ちません。子どもたちを虐待の現場から救いだしても、傷ついた心を癒やし、回復させるのは容易ではありません。児童虐待によって子どもたちが受けるトラウマ(心的外傷)の大きさは、計り知れないものがあります。

子どもたちが虐待をはじめとした不適切な養育を受け傷ついた心の状態となり、さまざまな症状を呈するのが「反応性愛着障害」です。

## 反応性愛着障害



福井大子どものこころの発達研究センター  
熊崎 博一 特命助教

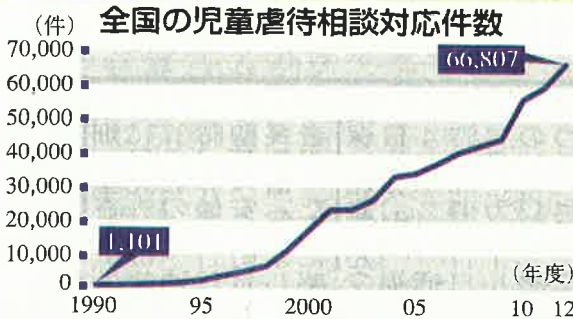


## 家族全体でのケア必要

### 反応性愛着障害の主な症状

抑制型	脱抑制型
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に対して無関心</li> <li>・用心深い</li> <li>・集中力が低い</li> <li>・人の目を見ない</li> <li>・人を信用しない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多動</li> <li>・ハイテンションになる</li> <li>・人見知りがない</li> <li>・平気で悪口を言う</li> <li>・友達とのトラブルが多い</li> </ul>

※あくまで一般的な例、両方の症状が見られることや一部の症状しか認めないこともあります



すことが多い「抑制型」と、部分的な愛着関係の状態に取残され、他者に対して無差別に薄い愛着を示す「脱抑制型」です。

抑制型では、世話をしようとしている人に対して非常に警戒的で、甘えたいのに素直に甘えることができません、優しく見せるのですが、落ち着か

ず多動であることが多く、注意欠陥多動性障害(ADHD)によく似た症状を呈します。この反応性愛着障害という問題が、最近では「普通の家庭」で育てられている子どもたちの間にも多数見られるようになってきました。子どもが少し発達障害の特徴を持ち、養育者にとって関わりにくく、必要な世話を適切に受けられないことでも起こりやすくなります。医師の立場でも診断は非常に困難なのですが、普通の家庭で育てられている子どものケースでは、さらに困難を極めます。養育者の立場でも、自閉症・ADHDと診断が似ているため、なかなか子どもの症状が不適切な養育によるものか、あるいは発達に関するものかという理解が難しいよう

です。治療は、第一に安心して生活できる場の確保、第二に愛着の形成とその援助、第三に子どもの生活・学習支援適切な学習支援、その後、心理治療となりますが、治療も難しく、

具体的には、過覚醒状態になり多動・易刺激性になったり、感情コントロールが難しく暴力的になったりします。治療に望む養育者にも根気が必要であり、養育者を支えることも治療の大きな柱となります。いわば治療には、

当診療部は、子どもの心の問題の診断・治療を専門とする全国でも数少ない医療機関です。子どもの発達に関する追跡調査研究をはじめ、子どもの養育環境と発達に関わる問題についても多くの研究を行っています。

子どもの心に関する未解明の問題を解明することで、心が危機的な状態にある子どもを救い出し、支援することを目指しています。地域に根差す大病院として、疾患の解明と皆さんの安心に少しでも役立てることを願っています。